

服感や、安價な優越感を一掃して衆に率先して日華の提携の先驅者たるの覺悟を以て邁進しなければならぬ。

たゞに姑息な名譽心にのみ捕はれてゐるならば我が日本佛教は大陸進出の價値なきものであり、再び孤島本國に退去すべき運命に逢着せねばならないであらう。

其と共に大陸に勇飛せんと志するものは先づ支那に對

## 改造か創造か

既に語られた諸君の御意見を拜聽するに、何等か、口では言得ぬ事が語られてゐた。口では言ひ得ぬ事が、諸君の眼で否諸君の態度で而も明に語られてゐた。それは一體何か、……………二十世紀の神話である。われわれの世紀が創造した神話である。諸君、周知の如く、現今の創造的努力は、全體性へと、ひたぶるなる歩みを、續てゐる。われわれが、地平線上仄かに知覺した世界に

する認識を深め確實なる足跡を印することが出来るやうに用意してあらねばならないことは勿論である。

公務多端。二、三分づつの僅かの暇をぬすみ書き綴つたもの故御判讀を賜はれば幸甚至極、では遙かに各位の御健勝を禱る。

## 岡 部 科

就て、新しき心臓を形作る爲に、あらゆる手段を盡し、われわれが、望むまゝにこの世界を分解し、かくて混沌たる状態から秩序あるPOSITIONに迄變形せんとするので。

諸君、既に過去りし二十世紀の三分の一世紀を回顧し給へ。われわれは、一つの強固なる壁に突き當つた、ナチオールの聲は街に喧しく、幾多の小市民的打開策が試みられたるにもかゝらず、そこに生じたものは、實に虚

無主義であり青年のデカタンズであつた。イズムが現れて又去り、危機はわれわれの頭上に迄掲げられた。かゝる危機は何に由來するか、若し茲に文化的なるグルニドが發見されたとするならば、正に夫は近代人の悲劇である。今吾人は、自明なる理を掲ぐる攝理を嘆くのである。即ち近代人が、一つの世界を等閑視せし事に由來したものである。一つの世界を等閑視する事に依て、勿論他のもう一つの世界は華なる展開をなした。吾人が稱して近代文明と言ふものが之だ。だが近代文明に就て、私は喋々として語る必要を持たない。われわれが生れ、われわれが教育され、そして現在われわれが此前に立つて居る世界之が近代文明である。然し、最早……否……一九〇〇年に於て、正確に言ふならば「近代の世期」は終つたのだ。彼のオスワルド・スベンクラが有名な著書「西洋の没落」に於て、既にわれわれが、新生か死かの一大歧路に立つて居る事を明瞭に指摘した。然らば、近代文明は如何にして没落するのか、如何なる原因に依て没落し行くか、今われわれは、この事をつきとめる事に依つて、われわれ自身の中に、仄かに知覺した、新しきモラルの誕生を祝さうと思ふ。

蓋し近代の全ての思想は内在の思想であつた。換言す

るならば、人間の思想であつた。既に多くの人々に依つて語られし如く、人間が尺度となり、かくて計られた思想であつた。噫！私はもつと詳しく語るふ。この五尺の機身と五十年の命と、かくも僅少なる時空しか有しない人間にピントを合せんとする思想であつた。エデンの花園に於て、アダムとイヴが智慧の果を食たのが、人間の原罪であるならば、人間の知識を以て思索する近代人の巨大なる罪惡と不遜とを憶ふべきである。是は何を意味するのか、正に近代人の無信仰を表明するものである。そこに尙何等かの信仰があつたとすれば、夫は絶対的不確實に對する信仰であつた。絶対的なものへの信仰を消失した時代は將に滅亡の歴史をたどるであらふ。

今やわれわれはプラトンの聲に和して、斯く近代文明を皮肉つてもよいであらふ。即ち人間が萬物の尺度であつて、而も何故豚は萬物の尺度とならないか、豚こそ萬物の尺度ではないか、夫は明に個人否個物が近代文明の尺度である事を意味する。かくてそこに形成されるものは閉ぢられた宇宙であり、それは時間的世界である。それが如何に長くあつても、所詮それは長き時間の連続であつて、永遠とは本質的に異なるものである。近代人の思考によれば、この時間的世界のみが眞であつて、中世人が憧憬れ

たあの世界は誤謬であつた。吾は正しく彼は誤であつた。然し、この正しき我が、正しき時間、何と物悲しきものであらう。「西洋の没落」近代文化は、何故に没落するのか。然しこの間は誤つてゐる。實は近代文化はその頭初から没落しつつあつたのだ。近代文化と俱に同時没落し行く眼が、この没落し行く文化を見誤つたのだ。われわれの先輩たる學者の眼は誤つてゐた。シュライエル・マツハーにしろ、リツケルにしろ、彼等がその生涯を傾けて成した仕事は、近代の「慧」を最少限度に評價したことにつきる。然し「慧」を少く評價することは「慧」を少くする事ではない。「慧」は少く評價されつつ、而も増大しつつあつたのである。と云ふのは近代には慧を極むべき何物もなかつたのである。つまり永遠がなかつたのだ。私は一個の宗教を例して説明しよう。

近代に日蓮宗はなかつた。倒さまに立てられたる日蓮的信仰の歪曲せられた變影があつたけれど。如何に顛倒せる敬稱が用ひられし事か、曰く、人間日蓮、英雄僧日蓮、國聖日蓮、改革者日蓮等々、然し上人は斷じて、かゝる人間的敬稱に値するものではない、永遠より來り給ふて常にわれわれの間を歩み給ふ偉大なるメシアである。

私はシタルクなる眼をもつて現宗門を覗こう。私は先

づ六世紀をさかのぼり。平安公卿文化のロマンチックな眠より醒めた鎌倉の朝を見よう。

諸君、夕には夕の倫理あり、朝には朝の倫理がある。萌え出る事が春に生くる正當な生方であるならば、冬に枯れ朽る事も亦自然の倫理である。暮れ行かんとする薄暮を朝に迄もどさんとするは、正に痴人の夢か、來る可き朝の爲には、平安末期のロマンチエストも安なる眠に入らねばならなかつた。今しボードレエルの言葉を借りるならば「汝等恥もなく寝よ」と叫ばれなければならぬ。噫、物悲しき世紀の終末、この世紀末に於て、凡人共を率る理想人と全人類の死刑執行者たる深淵人との和解すべからざる鬭争が行るのだ、前者には、時機を辨へざる不遜があり、後者には背教者のながす涙の眞實がある。君よ耳を興へよ！ 全人類への死刑宣告者は、實に日蓮であつた。來る可き朝への、平安人に對する死刑執行者であつた。時機を辨ざる小人もが夕を朝に還元せんとして喚き。有益なる社會事業にいそしむ者。——極樂寺良觀——生佛良觀、慈善者良觀、社會事業家良觀、乃至獻金募集者良觀、〇〇機敵納者良觀、彼のあらゆる試は休息に就かんとする終末の民をして、晝へと馳り立てた。なれど暮れ行かんとする薄暮は寂漠として聲なく地平線

下に没したのである。

かくて星霜一變、識者言を發たば一言にして非常時を云ふ、正に然り、○○の國と謗法の國とが干戈を交ふるに至つては、之をしも非常時と云はずして何ぞや、かゝる超非常時局に、徒らに俗的流行を追ふに究々とし、かけ聲高き現教團の總動員は、軍部への献金として具現し、その結果は、如何なりしか、一部軍部の識者をして眞に宗教家の天職を疑念せしめ、他になすあらんと迄皮肉られた。○○機猷納に際しては、紙上あのブ様な臭聞を専らにする等、如何に、現日蓮教團に、かつての良觀的色彩の濃厚なりや、今し良觀この世にありしならば、鎌倉教線に「痴人良觀」と擧蹙せられし良觀は、江戸の仇を長崎で、かつての日蓮の徒は遂に我が下に來れりと快心の微笑をたゞへる事であらふ。かゝるアンチ教祖性の蔓延はさることながら。

## 波木井書に於ける良の方の管見

難 波 智 龍

一、緒 言

嘗て淨土門の友松師が彼の家の指方立相の淨土觀を否

波木井書に於ける良の方の管見

曰く僧風教育制度、參議制度、○○○○制度、制度の完備、形式の完璧を期するを以て、その内在的精神を忘る、かくて既成文明と共にその没落を運命するのか、珍香薫し、錦紫衣の「古へ、古へ」の憧憬は、諸君徒らなる復古主義は、正に青年の進歩をはゞむ反動主義だ。本化上行日蓮大聖人の身延御入山の御本懐が、かゝる顛倒的なる、否アンチ教祖性の豊なる一見經る末輩の輩出にあつたのか！ 然しながら、われわれは、われわれの世紀は、既に、遙か地平線上仄かなるコスモスを知覺した、かゝる宇宙への飛躍に於て、諸君、正に祖廟は、眞の祖廟中心は、かゝるコスモスへの一つの偉大なるホース・プアーでなくてはならぬ、かくして最後に叫ばれるもの、それは、危機宗學の提唱と云ふ事である。(學院主催秋季辯論大會に於て)